

## RCNP研究会報告

タイトル：CHIRAL07, Chiral Symmetry in Hadron and Nuclear Physics

日程：2007年11月13日（火）-11月16日（金）

開催場所：大阪大学コンベンションセンター

参加人数：119名（内、外国人37名）

ホームページ：<http://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/~chiral07/>

世話人：Mamoru Fujiwara (RCNP, Osaka Univ.), Satoru Hirenzaki (Nara Women's Univ.: Secretary), Emiko Hiyama (Nara Women's Univ.: Secretary), Atsushi Hosaka (RCNP, Osaka Univ.: Secretary), Teiji Kunihiro (YITP, Kyoto Univ.), Takashi Nakano (RCNP, Osaka Univ.), Makoto Oka (TITech), Hiroyuki Okamura (RCNP, Osaka Univ.), Eulogio Oset (Univ. of Valencia), Yasuhiro Sakemi (Tohoku Univ.), Olaf Scholten (KVI, Univ. of Gronningen), Hideo Suganuma (Kyoto Univ.), Kosuke Sumiyoshi (Numazu College of Technology), Hiroshi Toki (RCNP, Osaka Univ.)

### 内容と成果：

本会議は2000年から定期的で開催している、カイラルワークショップの5回目にあたる。RCNPで開催されるのを機会に、今回は「カイラル対称性」をキーワードとし、関連する話題を原子核、ハドロン物理の分野から集め、4日間集中的に議論を行った。クォークの閉じ込め、ハドロン分光、ハドロン間相互作用、原子核中におけるハドロンの性質、パイ中間子の原子核物理における役割、テンソル力の起源、元素合成等に関する議論が活発に行われた。カイラル対称性とパイ中間子の重要性を認識し、それがハドロンから原子核、天体現象に至るまでの物理を理解するための、一つの方向性を見いだすことができた。講演はプレナリーとパラレルに分かれたが、ポスターを活用することによって、参加者全てが議論に参加できるような内容の濃いものとなった。成果は、World Scientific発行の、Modern Physics Lettersの特別号として出版される予定である。なお、この研究会は、RCNPの他、大阪大学21世紀COEからの補助も受けて行われた。